



イスラーム・ジェンダー学科研 公開セミナー

日本に暮らすムスリムを 取り巻く諸問題

——職場・学校・地域から

日本には、現在20万人ほどのムスリム（イスラーム教徒、外国人・日本人含む）が暮らしているとされ、研修や観光などで訪れるムスリムの数も急増している。私たちは、彼らと共に生きていくために何をすべきなのか、どのようなことを考えていけばよいのか。本セミナーにおいては、職場環境や住環境、子どもの教育など、身近なトピックをとりあげて、皆でそれらを考えてみたい。

2020.2.29 (土) 13:15~16:50 (開場13:00)

ジェンダー・リサーチ・ライブラリ(GRL 名古屋大学)

地下鉄名城線・名古屋大学駅下車・1番出口すぐ

会場への
アクセスは
こちら



参加無料・申込不要

13:15-13:20 開会のことば 小野仁美

13:20-13:50 日本の入国管理制度とグローバリゼーション
—とくにムスリムの定住の観点から
伊藤弘子

13:50-14:20 日本における1990年代のイラン人移民と
2010年代のクルド人移民
—異なる問題と共通の問題
森田豊子

14:20-14:50 ムスリム二世世代のアイデンティティ危機
とその克服のための取り組み
サラ・クレシ好美

15:00-15:30 滞日インドネシア人看護師・介護福祉士
の経験（課題）
奥島美夏

15:30-15:40 コメント：石川真作
ドイツにおけるトルコ移民との比較

15:40-15:50 コメント：細谷幸子
医療機関におけるムスリム対応

16:00-16:40 質疑応答&総合討論

16:40-16:50 閉会のことば 長沢栄治

17:50-18:20 名古屋モスク見学（希望者のみ事前予約）



登壇者プロフィール

伊藤 弘子（いとう ひろこ）

名古屋大学大学院法学研究科学術研究員・非常勤講師（元特任准教授）。専門は、国際私法、比較家族法、アジア法。国際私法の立場からみた、宗教法を含むアジア各国の家族関連法の適用問題を研究。主たる研究対象は南・東南アジア。外国法制研究会代表として内外の専門家・実務家と共同研究を行っている。主著に『現代のイスラーム法』（分担執筆、成文堂、2016年）、「インドにおける法多元性と法の抵触」（国際私法学会年報19, 2018年）など。

森田 豊子（もりた とよこ）

現在鹿児島大学グローバルセンター特任准教授。専門はイラン地域研究。主な著作に（編著）『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ1 結婚と離婚』（明石書店、2019年）、（貫井万理と共著）「1979年革命後のイラン女性と社会変化—2013年家族保護法をめぐる」（福原裕二・吉村慎太郎編『現代アジアの女性たち—グローバル化社会を生きる』新水社、2014年）など。

サラ・クレシ好美（さらくれしよしみ）

宗教法人名古屋イスラミックセンター名古屋モスク渉外担当理事、慶應義塾大学SFC研究所上席所員、早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員。研究テーマは、ハラール関連とムスリム第二世代関連。著書は『ハラールとハラール認証—ムスリマの視点から実情と課題を語る—』（慶應義塾大学湘南藤沢学会、2017年）。

奥島 美夏（おくしま みか）

天理大学国際学部教授（社会人類学）。早稲田大学政治経済学部、東京都立大学大学院博士課程、ムラワルマン大学客員研究員などを経て、現職。関連業績として編著『日本のインドネシア人社会』（明石書店、2009年）、共著『東アジアにおける移民労働者の法制度』（アジア経済研究所、2014年）、『外国人看護・介護人材とサスティナビリティ』（くろしお出版、2018）、『東南アジア文化事典』（丸善出版、2019年）など。

石川 真作（いしかわ しんさく）

東北学院大学経済学部共生社会経済学科教授。専門は文化人類学、移民研究。ドイツ在住トルコ系移民を主たる対象とした調査研究を行うとともに、日本の外国人住民についても調査している。主な著作は、『周縁から照射するEU社会—移民・マイノリティとシティズンシップの人類学』（世界思想社、2012年）、『ドイツ在住トルコ系移民の文化と地域社会—社会的統合に関する文化人類学的研究』（立教大学出版会、2012年）など。

細谷 幸子（ほそや さちこ）

国際医療福祉大学成田看護学部看護学科まちづくり・公衆衛生看護学准教授。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。看護師・保健師。1999年から現在まで、イランの医療・福祉に関する調査研究と障害者支援活動に従事してきた。著書に『イスラームと慈善活動』（ナカニシヤ出版、2011年）がある。